

マアナゴ（地方名：はも）

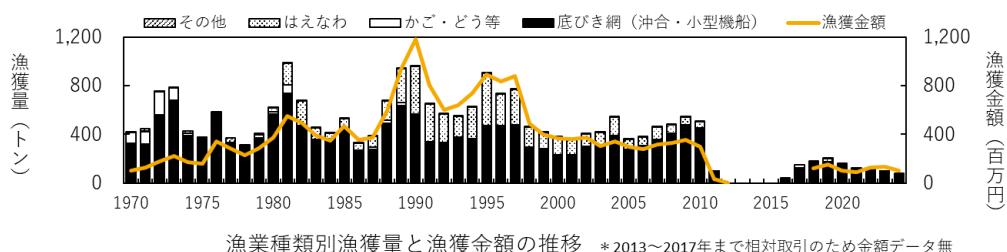
1 生態

- 北海道以南の沿岸に広く分布します。葉形仔魚は黒潮によって運ばれて2月頃に本県海域に来遊します。
- 本県では成熟個体は見つかっていません。産卵場は沖ノ鳥島南方の九州-パラオ海嶺上の海域とされており、12月頃に産卵します。
- 小型から中型魚は、エビ類や魚類等様々な生物を捕食し、全長50cm以上の大型魚では魚類や軟体動物の大型種の捕食が多くなります。



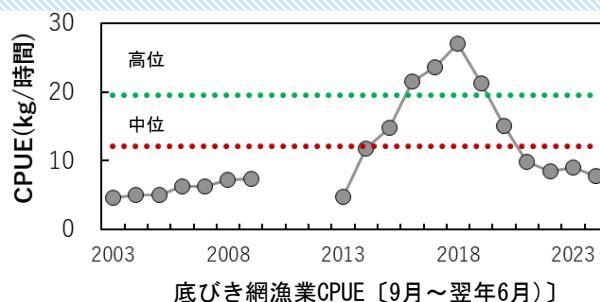
2 漁業に関する情報

- 主に底びき網、はえなわで漁獲されています。
- 2024年（令和6年）の漁獲量は73トン、金額は101百万円でした。
- 2011年3月の震災以降、操業自粛や国による出荷制限で水揚げはありませんでしたが、2016年（平成28年）9月から再開されています。
- 震災前には葉形仔魚を対象とした船びき網の操業が一部で行われていました。



3 資源の状態

- 底びき網漁業のCPUEを指標値として判断すると、2024年は7.8kg/時間で資源水準の低中位境界線(12.1kg/時間)を下回り、資源水準は低位、2020-2024年漁期における動向は減少と考えられます。
- 震災以降は増加傾向を示しましたが、2019年以降は減少に転じ、2024年は震災前と同程度の水準です。



4 資源管理の取組み

- 2007年2月策定の「福島県マアナゴ資源回復計画」により、全長30cm未満のマアナゴの漁獲禁止が開始され、現在も自主的な体長制限が取り組まれています。
- 震災前には葉形仔魚についても地区ごとに、漁獲規制（相双地区：禁漁、いわき地区：2～5月、20kg/隻・日、定休日設定）を定めていました。